

人工透析患者尊重の姿勢で

東京都の福生病院での腎臓病患者の治療中止が波紋を広げた人工透析。そもそもどういった治療なのか。どんな場合に中止の選択があり得るのか。透析治療に取り組む小田内科クリニック（広島市東区）の小田弘明院長と、さいきじんクリニック（福山市）の齋木豊徳院長に聞いた。（衣川圭）

東京・福生病院 治療中止が波紋

●どんな治療？

腎臓の大きな役割は、体の中にたまった余分な水分や老廃物を尿に変えることだ。人工透析は、この役割ができなくなった腎不全の治療法の一つ。自分の腎臓の代わりに人工の膜などを使って余分な水分と老廃物を取り除く。小田院長は「多くの人は治療を続けながら、仕事をしたり、ゴルフをしたりできます」と話す。一般に、透析を始めたときの年齢から平均寿命までの半分の年月は生存できるとも言われる。

週3回通院して約4時間かけてする血液透析が一般的だ。治療を受ける時間を重荷と感じる人や、血圧が下がってしんどくなる人も

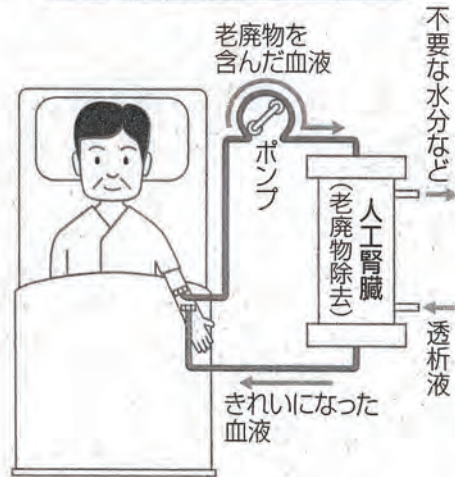
腎臓に代わり老廃物除去

いる。齋木院長は「できれば透析をしたくないという人は多い。患者が納得できるまで導入すべきではありません」と強調する。食欲低下や溺れるような息苦しさから導入を決断することが多い。

さいきじんクリニックでは「オーバーナイト透析」もしている。夜の睡眠時間を使って1回8時間かけ、ゆっくりと水分と毒素を抜くため、体の負担が小さいのが特徴だ。齋木院長は「昼間を有効に使ってもらえる。長期生存率が高まることも分かっています」と説明する。

他にも自分の腹膜を使う「腹膜透析」がある。家でできるのが長所だが、腹膜炎を起こしやすいなどのマイナス面もあり、透析全体の3%にとどまる。

人工透析のイメージ



血液透析の機械が並ぶ透析室
(広島市東区の小田内科クリニック)



小田内科クリニックの
小田弘明院長



さいきじんクリニックの
齋木豊徳院長